

能登半島地震について

先週生徒会が行った能登半島地震募金に皆さんの多くが協力してくれました。とてもうれしかったです。「ありがとうございました」

能登半島地震についてはテレビ等でいろんな話が紹介されていますね。その中で校長先生が特に印象に残ったお話を紹介します。

この地震で大きな被害を受けた地域に石川県珠洲市があります。その中に三崎町寺家下出地区というところがあります。そこには高齢者を中心に約40世帯90人ほどが暮らしていました。この地区も地震によって多くの住宅が倒壊しました。住民は、揺れが収まると荷物を持たずに、体一つで坂道などを上り、高台の集会所に向かって避難し、地震から5分ほどで集会所に到着することができ、全員無事だったそうです。地区では東日本大震災をきっかけに毎年1, 2回避難訓練を行っており、地震当日も近所同士で声を掛け合い、足の悪い人を背負うなど住民は「奇跡じゃなくて、訓練が生きた」と振り返っています。

5月の防災訓練の時にも東日本大震災における「釜石の奇跡」についてお話ししました。憶えてくれていますか？中学生が小さい子供や高齢者を助けながら避難した結果、全員が無事だったというお話でした。その時中学生がのこした「100回逃げて空振りでも101回目も逃げてね」は有名な言葉です。

この2つの例からみても、普段からもしもの場合に備えることがいかに大切かということが分かります。

「備えあれば患いなし」何事においても心掛けていきましょう。